

## 7 特別支援学校・高等部・「作業学習」の実践 「紙工芸、文化祭頒布を成功させよう」

### 実践の概要

本校高等部の作業学習では、全学年を作業班毎に編成し、生徒の実態や課題に応じた学習に取り組んでいる。紙工芸班は1年生5名、2年生7名、3年生4名、重複学級生徒2名の計18名で、主たる障害は、知的障害に加えて自閉症や自閉的傾向、ダウン症の生徒等、状況や実態は様々である。

生徒の中には、危険認知が難しく配慮を要する生徒、言葉かけのみや、ジェスチャーで理解して活動出来る生徒、見本を見ながら地道に取り組む生徒、手を添えて次の活動にうつれる生徒など実態の幅が広い。

年度の後半になると作業工程を理解して活動できる生徒は増えるが、準備や片付けの取り組みが難しく、言葉かけを頼りに活動している状況で、学習の見通しの工夫は必要である。

そこで、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、理解と活動のしやすさ、自信と見通しを持って取り組めるようにしたい。その中で自分の作業への責任・達成感が得られるよう配慮し、自信をつけ、成功体験を積み重ね、働く意欲を高めていきたい。

### 1 単元（題材）について

#### (1) 作業学習（紙工芸班）での指導について

「作業学習」は領域・教科を合わせた指導であり、知的障害教育の中心的な指導の形態の一つとして教育課程に位置づけられ、本校でも取り組んでいる。本校紙工芸班では現在、牛乳パックを再利用し、一筆せん、ポチ袋、卓上カレンダー、はがきの製作、シュレッダーくずを再利用してエコポットを製作している。どの作業学習の班でも、将来の就労に向けた「働く」ための意欲・態度・知識・技能を身につけることがねらいである。

#### (2) 本単元の意図

毎年11月に行われる文化祭において、日頃の作業学習で生産してきた製品を保護者や地域の方々に頒布することを目標として活動を行っている。学習で作られた製品（生産物）の質や量が、文化祭頒布の成否に大きく関わると同時に、いかに「働くこと」を意欲的に捉えることができるかに関わってくる。生徒達が「達成感」「満足感」「充実感」を得るための最大の機会である。

#### (3) 本単元の目標

本校における作業学習では、それぞれの班の生徒の実態の幅が広く、それぞれの実態や課題に応じた作業工程に取り組んでいる。よって作業目標には個人差があるものの、本単元においては、頒布活動までに決めた製品の目標数がある。各自がその目標に向けて、意欲的に取り組むための支援が必要であり、そのためにもユニバーサルデザインの視点は重要であると考えます。

## 2 本時の学習指導の実際

### (1) 本時の目標

- ・文化祭頒布に向けて今日作成する目標枚数を達成しよう。
- ・準備から片づけまで、最後まで責任を持って取り組もう。

### (2) 展開

時間	学習活動	学習活動・予想される反応	指導上の留意点 ◆ユニバーサルデザインの視点	評価
授業開始前	目標決め	〈目標を決め、モチベーションを高めよう〉 →前回の作業を基に目標を設定することができる生徒もいるが、設定が難しい生徒も多い。言葉かけなど支援が必要。	◆黒板に目標枚数を記入することで、目標意識をより一層高める。【視点7】	・目標が設定し、意識できたか
5分	1 挨拶及び活動確認	〈今日やるべきことを確認しよう〉 →姿勢の保持が難しい生徒や、全体での言葉かけだけでは体を向けるのが難しい生徒もいる。STの声かけ等支援が必要。	◆本時の目当てと授業の流れについて、掲示物を使って説明する。【視点3、5、7】	・今日の取り組みを理解できたか
35分	2 作業	〈目標達成に向けて作業に取り組もう〉 →多くの生徒が意欲的に活動するが、作業工程に自信のない生徒や、集中力が切れてしまう生徒も出てくるため、生徒のモチベーションを持続させるような言葉かけや支援を行う。	◆手順表で自信をつける【視点4、10】 ◆黒板やホワイトボード確認で見通しを持ち、作業に取り組む。【視点5、7、8】 ◆補助具を活用し、作業に自信を持ち意欲向上を図る。【視点11】	・手順表が必要な生徒は、手順表が意識できたか ・目標を意識しながら作業に取り組めたか
10分	3 休憩	〈作業の合間に休憩をとろう〉 →休憩時間になっても作業に夢中になり、休憩を忘れてしまう生徒もいるため、言葉かけが必要。	◆タイマーを用意し、休憩時間に気づき周囲に声かけできるようにする。【視点5】	・リーダーの号令で休憩時間を意識できたか
35分	4 作業  片付け	〈目標枚数(回数)の達成に向けて作業に取り組もう〉 →多くの生徒が意欲的に活動するが、作業工程に自信のない生徒や、集中力が切れてしまう生徒も出てくるため、生徒のモチベーションを持続させるような言葉かけや支援を行う。  〈自分たちが使ったものを片付けよう〉 →役割分担を意識して作業を進めることが出来る生徒もいるが、何をすべきか戸惑っている生徒がいる場合には言葉かけが必要。	◆手順表を用意し、作業に対する自信をつける。【視点4、10】 ◆黒板やホワイトボードで目標を確認することで見通しをもつ。【視点5、7、8】 ◆個別に補助具を活用し、作業に自身を持つことで意欲向上を図る。【視点11】 ◆手順表、役割分担表を用意し、確認しながら作業を行うようにする。【視点5】	・手順どおりに進めたか ・疲れたり集中できない時、再度目標を意識しながら作業できるか ・ルールどおり自分の道具を片付け、掃除ができたか
5分	5 ファイル記入	〈今日の成果をファイルに記入しよう〉 →自分の成果を記録し、これまでの作業と比較できる生徒もいるが、記入が難しい生徒は支援しながら記録を行う。		・自分の成果を記録できたか
10分	6 成果発表	〈今日の成果を発表しよう〉 →自分自身で黒板に評価カードを貼ることで自己評価し、次回の作業へのモチベーションを高める。	◆評価カードを黒板に貼る。【視点7】 ◆黒板の表に作業の成果を示し、自分たちの作業量を評価する。【視点8、12】	・自分の成果を黒板に示せたか ・自己評価し次回の目標ができたか

### 3 ユニバーサルデザインの視点（12の視点より本時で取り組む視点）

#### （1）場の構造化

これまでどこに何があるか分かりにくく、今回、物品の整理整頓（掃除用具、文房具、作業材料等）をすることで、道具の置き場や活動場所が明確になり、見通しを持って取り組めるようになった。



#### （3）ルールの確立

作業に必要な手順書を用意した。ほとんどの生徒は、作業の流れを理解しているが、見通しの持てない生徒が積極的に参加できるように工夫した。



#### （7）板書の工夫

これまで名前のみを黒板に記していた。今回、板書に作業目標、作業結果、文化祭までの製作目標を加えることで、生徒はより目標意識を持つことができるようになった。また、目標が達成できたか振り返り、評価することで次回の作業への意欲を高めることをねらっている。文字の太さ、大きさ、書式も遠くから見やすいものにした。



#### （11）個人差への配慮

本検証で挙げた事例対象生徒をはじめ、何名かは授業の参加に配慮が必要である。そのため個人の実態に応じた、補助具の活用（失敗の減少）、すき具、計量道具の改良（作業の精度向上）、目標の設定（作業効率化）（見通しをもてる配慮）をすることで授業参加への意欲向上を図る。






#### 4 成功へのポイント

今回の改善点①～板書の工夫①～



黒板は名前や作業班の掲示になっていましたが、最も注目を集める場所なので、班構成だけでなく①作業内容、②目標回数(個数)、③評価(成果)も分かるよう工夫しました。始まりの目標設定や終わりの成果の発表を通して作業への意欲向上を図ります。

今回の改善点②～板書の工夫②～



また、黒板のわきには、中・長期的な目標(今回は文化祭)や目標個数に対して、また、文化祭まであとどれくらいかを一目見て分かるように図示しました。意欲を継続的に引き出すため、学習成果を目で見て理解できるよう配慮しました。

今回の改善点③～手順書～




紙すき班では、複雑な工程をほとんどの生徒はしっかり覚えて作業を行っていますが、覚えるまでに教員の根気強い指導の成果です。そこで、今後のためにも確実に作業工程の確認し、すすめるために一目で見える手順書を用意しました。

今回の改善点④～紙すき工程の配慮～



すき具は大変良く工夫されており、製品の精度向上になっています。工程の途中、すき具を水面から引き上げる時に木の上(わく)に乗せるのが難しい生徒のために、隣に予め水切り用の容器を用意して移すだけの工程にしました。

今回の改善点⑤～回数表の改善～



回数表は、生徒の意欲を高めるには有効です。そこで周囲から見えるよう配置し、確実に記録でき、かつ一目で分かるよう、埋め込み式にしました。また、教員がどこにいても回数を把握し、声掛けしやすい環境に配慮しました。

今回の改善点⑥～計量の改善～



「取り組みやすさ」を意識して、ミキサーカップに赤ラインを入れましたが難しい生徒がいました。そこで、ミキサーカップに基準を設けるのではなく、確実に適量の水を1回で入るよう計量カップに加工しました。これはミキサーに入れる水量が安定しないためです。汲みあげた時に定量になるよう水が抜ける仕組みです。

今回の検証で分かったことは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、①作業工程を構造化し効率よく作業に取り組むようになった。②一人で自信を持って取り組むことの出来る手立てとなった。③作業の見通しを高める手立て(手順表・回数表・タイマー・テープの目印など)となった。④コミュニケーション能力を高める手立て(感想発表ボード)となった。

児童生徒の「学びやすさ」「分かりやすさ」の視点に立ち、学習環境の構造的な観点から改善を試みた。特別支援学校の個に応じた支援のための学習環境を工夫は、通常の小中高等学校におけるユニバーサルデザインに応用できるものが多いと考える。児童生徒の「学び」を最大限に引き出すための環境づくりと同時にそのための指導も必要で、これをきっかけに授業改善について実践していきたい。